さかまた

鴨川シーワールド　NO. 45

シーワールドのアニマル達

●クマノミ

サンゴイソギンチャクと暮らす魚といえば、クマノミを思い浮かべる人が多いと思います。クマノミは千葉県以南の海に分布する10cm程の魚で、一面のお花畑のように群集するイソギンチャクの中で、白いはちまきをした顔をのぞかせる姿は、何ともかわいらしく愛嬌があります。触手に毒の刺胞があり、多くの魚たちにとっては近づくことのできないイソギンチャクも、クマノミにはふんわり柔らかいベッドのように感じられます。当館では波の水槽でこのクマノミとイソギンチャクの暮らしを展示していますが、ここで展示されているクマノミは鴨川シーワールド生まれで海を知らない魚達です。クマノミは成長して雄雌のペアができると、イソギンチャクの付く岩陰などに産卵し、ふ化するまでの約10日間、両親がつきっきりで卵を守ります。しかし、ふ化した後の仔魚は誰も守ってくれないために、係員がかわりにふ化する寸前の卵を別の水槽に移して人工的に育てています。はじめは水中を漂いながらプランクトンを食べて生活していますが、10日ほどでオレンジの体と白い縞があらわれ、誰に教わるでもなくイソギンチャクと生活するようになります。

人の手で育てられたクマノミ達とはいえ、「波の水槽」で元気よくイソギンチャクとたわむれ、他の大きな魚や激しい波の中で、海にいるのと同じようにたくましい姿を見せてくれています。

（桐畑）

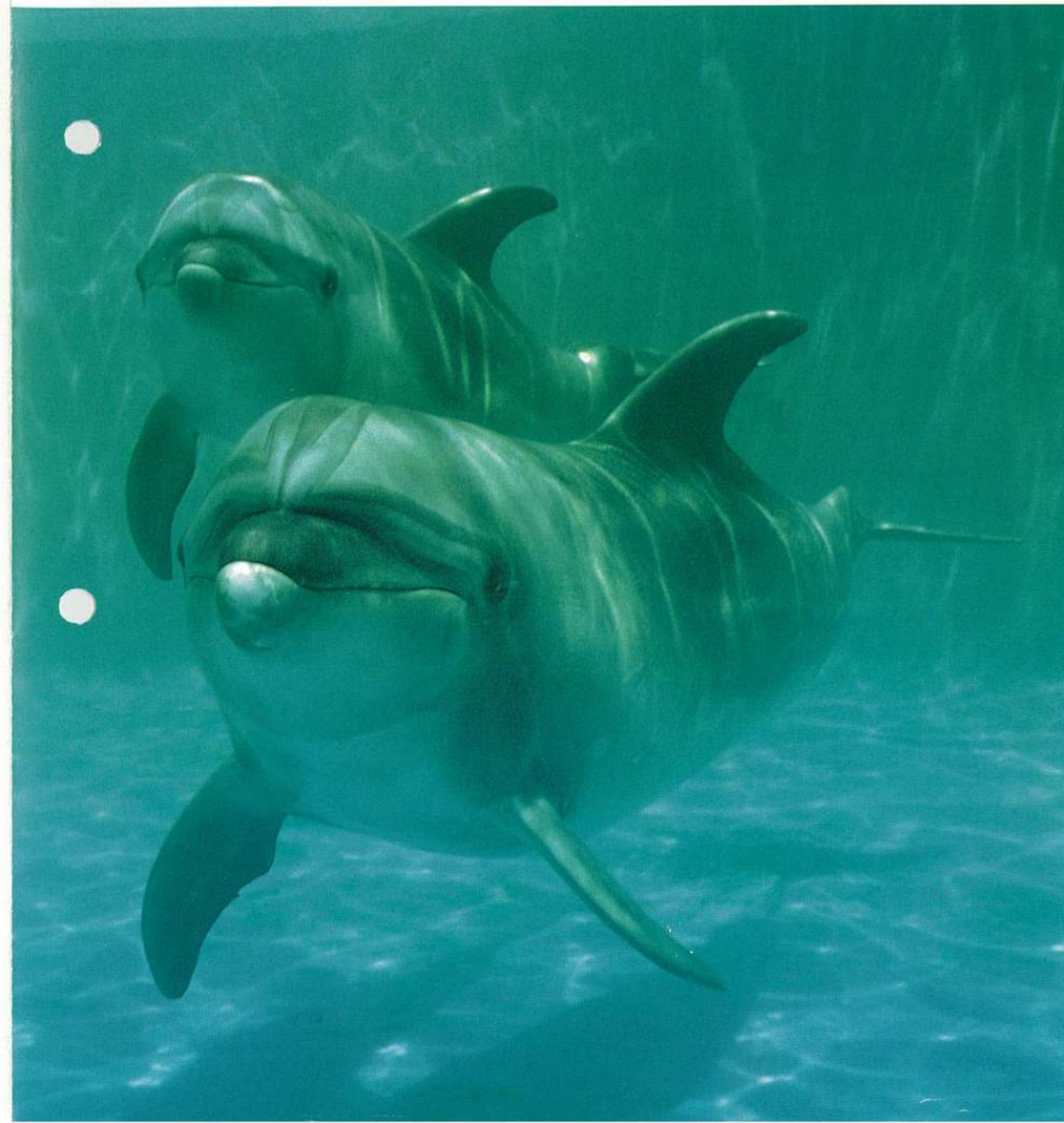
▲クマノミ　*Amphiprion clarkii*

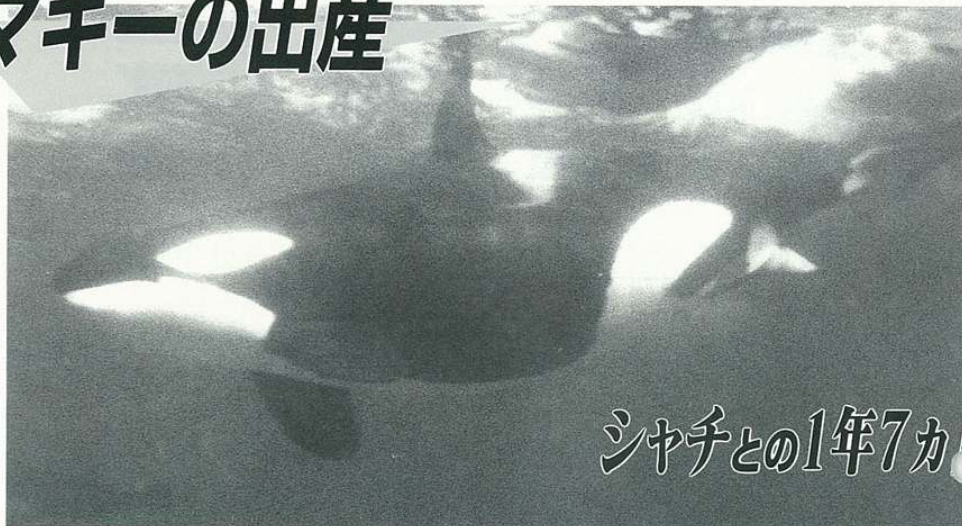
●ウメボシイソギンチャク

ウメボシイソギンチャクは、北半球の海に広く分布し、磯の潮間帯の上部に生息する種類で、潮が引いた磯で触手を縮めた姿が梅干を連想させることからこの名がつけられました。しかし、名前から連想する姿とは異なり満潮時に水面下エサを捕える触手を広げて群生している様子は海のお花畑のような美しさです。

当館では、干潮時に採集したウメボシイソギンチャクを「波の水槽」に展示しています。一度岩からはがすとなかなか展示水槽の岩に足盤が付着してくれず苦労しましたが、岩に足盤をあて指でしばらく押えていることにより付着させることができるようになりました。ウメボシイソギンチャクは、肉食性で触手にふれた小魚や小動物を捕えて食べます。当館では魚の切り身やアミなどを触手につけるようにして与えていますが、エサを与えると持ってましたとばかりに、一瞬にしてマジックハンドでつかまえるように口の中に運ぶ姿を見ることができます。波をおこし自然を再現した水槽なので、大変に元気が良く、展示を始めてから３ヵ月後にはたくさんの子供を生みました。現在も親のまわりには、親とそっくりな子供のかわいらしい姿を見ることができます。

（入野）

▲ウメボシイソギンチャク　*Actinia equina*

さかまた　No.45
（禁無断転載）
編集・発行　鴨川シーワールド
〒296 千葉県鴨川市東町1464－18
☎(04709)２－２１２１
発行日　平成７年７月

マギーの出産

シャチとの1年7ヵ月

▲出産中のマギー

平成７年３月３日、シャチを飼育しているオーシャンスタジアムには大勢のスタッフが集まっていました。午前３時という時刻にもかかわらず皆活気に満ち、誰の顔もこれから始まるシャチの誕生への期待と興奮にあふれていました。１年７ヵ月の間待ち続けた日がついにやってきたのです。

シャチのマギー

今回出産することになった雌のシャチ・マギーは昭和63年３月29日に、雌のシャチ・ステラと雄のシャチ・オスカーと共にはるばるアイスランドからシーワールドにやって来ました。ゆくゆくは昭和60年から飼育が続けられている雄のシャチ・ビンゴとの間に赤ちゃんができることを期待しての搬入でした。しかし、雌のシャチの性成熟年齢（身体的に仔を出産することができる年齢）は早くても８歳といわれていることから、年上のマギーでさえ当時推定年齢４歳であったため、赤ちゃん誕生はまだはるか先のことと思われていました。

マギーの妊娠

シーワールドに来てから５回目の夏を迎えようとしていた頃、定期的に実施していた血液中のホルモン検査からマギーが性成熟をむかえていることが判り、８月中旬にはビンゴと、そして９月にはオスカーとの間で交尾行動も確認されました。いままで夢であった日本で初めての飼育下でのシャチの出産が現実味を帯びてきたのです。そして平成５年10月には、ホルモンの値からマギーが妊娠していることが確認されました。性成熟したとはいえ直ちに妊娠に結び付くとは考えてもいなかったスタッフは、本来ならば大喜びをしなければならないはずのところ、あっという間の妊娠に不意をつかれたような気分でとまどいさえ感じていました。しかしマギーのおなかの中に生命が宿ったのは紛れもない事実で、出産に向け様々な準備が始められていきました。

▲'93年３月　（妊娠６ヵ月頃）

▲'94年10月（妊娠13ヵ月頃）次第に腹の膨らみが明らかとなっている

妊娠後のマギー

妊娠後もしばらくの間はいままでと変らずにマギーはショーに出て豪快なジャンプを見せていましたが、妊娠10ヵ月頃になるとわずかながら腹部のふくらみが判る様になり、妊娠12ヵ月目にはジャンプも重たい感じになってきたためショーへの出場を見合わせ水量1,300ｔのサブプールで飼育を続けることにしました。その後のマギーは食欲は旺盛で大変順調な様子がうかがわれ、左右の乳首の間隔と胴回りの計測から、乳腺の発達と胎児の成長が順調であることもわかりました。

妊娠16ヵ月目の平成６年12月には出産に備えてマギーは飼育プールの中でも最も大きい水量3,500ｔのショープールに移されました。ショープールでのマギーは、ショーにはもちろん参加していませんでしたが、他の個体がショーをやっているのが気に入らないのか、しばしば他の個体の邪魔をしてショーを乱すなど元気そのもので、とても出産が迫っている様子には見えませんでした。ところが年が明けた平成７年１月10日に同居していた雄のビンゴによる追い回しをうけてからは、プールの隅に浮き体をまるめる動作が見られ始めました。そこで、いつ出産が始まってもよいようにマギーをしばしば追いかけるビンゴを、マギーの安全な出産のために別のプールに移して様子を見ることにしました。するとそれまで見られていた出産の前兆のような動作はなくなり、マギーはすっかり落ち着いてしまったのです。しかし予定日が近いと思われたこの頃よりスタッフが交代で夜間の観察を始めることにしました。

予定日を過ぎて

これまでの外国の水族館におけるシャチの出産例から、マギーの出産予定日は平成７年１月14日と予測されていましたが、予定日を過ぎてもマギーには一向に出産の兆しが見られません。しかし、出産に対するスタッフの緊張感もそろそろ限界と思われた２月の下旬、マギーは係員の前に寄って来なかったり、餌を食べなかったりすることが多くなり、３月２日には初めて乳汁の分泌も確認されました。いよいよ出産が間近になったのです。

▲尾ビレが出現して生まれるまで１時間25分経過した

▲スタッフが見守る中出産が始まった

マギーとスタッフの１年７ヵ月

平成７年３月３日、午前２時50分、待ちに待った子の尾ビレが現れました。子の体は徐々に押し出され、午前４時18分マギーから産まれた赤ちゃんは、すぐに自分で水面まで泳いで初めての呼吸をしました。日本で初めての飼育下でのシャチの赤ちゃんが誕生したのです。

生まれたばかりの赤ちゃんには、生まれた後越えなければならないハードルがいくつかあります。中でも①水面まで泳ぎ、生まれて初めての呼吸をすること②母親に付いて泳ぐこと（親子関係の確立）の２点は出生直後の子にとっては生きていくために最初に越さなければならないハードルなのです。マギーの子は真に残念なことにこの２番目のハードルを越すことができず、大きな期待をもって観察をしているたくさんのスタッフの目の前で母親から離れプールに沈んでしまいました。新しい生命誕生に挑んだマギーとスタッフの１年７ヵ月は、わずか30分で残念な結末をむかえて幕を閉じてしまったのです。

幸いマギーは現在ではすっかり元気を取りもどしているので、スタッフ一同は再びマギーが妊娠し、オーシャンスタジアムでマギーの親子の姿を見ることができる日を願い、シャチ達との新たなつきあいが始まっています。

（勝俣浩）

▲親子で浮上したところ

トピックス

1歳の誕生日を迎えた セイウチの「チャッキー」

▲小魚を口にくわえるチャッキー

セイウチの「チャッキー」が、6月6日に1歳の誕生日を迎え、日本動物園水族館協会から、日本で初めて飼育下で繁殖した動物に贈られる「繁殖賞」を受賞しました。

チャッキーは、生まれてから約1ケ月は、母親のムックと共に産室で過ごしましたが、その後はアイドルコーナーで、父親のタックとの顔見せも終わり、現在では親子3頭で暮らしています。

▲体重測定中「じっとしていてください！」

チャッキーは生まれてから母乳で育ち、生後4ケ月目に小さな牙（犬歯）がはえ始めた頃から小魚を呑み込むようになりました。セイウチは2年間母親の乳を飲んで育つので、1年目の現在は、おやつ程度に1日3kgの小魚を与えています。体重は224kgと生まれた時の4倍近くにもなりました。今では、父親のタックのしぐさをまねするなど、やんちゃな一面も見せてくれていますが、危険を感じると「ウォフ、ウォフ」と独特の鳴き声で母親の助けを求め、すぐにかけつけた母親のムックの陰にかくれてしまう甘えん坊です。ところが、係員に対しては、まったく怖がる様子がなくどんどんと近寄ってきて遊ぶので、係員からは、将来のスターとして大いに期待されています。きびしい教育係？が必要との声をよそに、のびのびと育っているチャッキーのこれからに御期待下さい。（金子・勝俣悦）

▲母親のムックと日光浴中

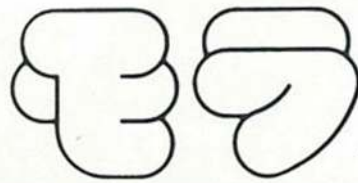
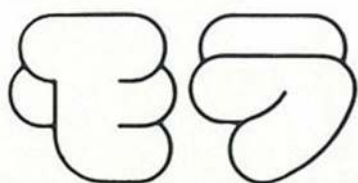
波の水槽 リニューアルオープン

▲岩を乗り越えてくる波

「水の生きものの本当の姿をもっと知ってもらいたい」という願いをこめて、パノリウムの一部が変わりました。ウェーヴ・インプレッション・ゾーン（波感動）と名づけられた新しい水槽は、波を再現し海の生きもの達のいきいきとした生活の様子を観察することができます。さまざまな波の中で見せてくれる海の生きものの躍動感あふれる生活ぶりに、来園される人々からは新たな発見と驚きの声が聞かれ、新展示は大変好評です。荒波に流されないように岩にしがみつくショウジンガニ、波が運ぶ細かく小さなエサを捕えようと美しい触手をいっぱいに広げるヤギ類、激しい波が引きおこす水流を避け岩のくぼみに身を寄せるアナハゼ、上下する水の動きにあわせ、まるで白波の一部であるかのように見えるムギイワシの群れなど、これまではあまり印象にのこらなかった小さな生きもの達にも目が向けられるようになり、その見どころは数えきれません。この度の自然の海の再現には、いくつもの水を動かすポンプや空気を送るコンプレッサー、電子器機によって動く波動装置などが使われ、南房総の磯の岩を型取った復製で岩の造形を作ったり、多くの海藻を展示するなどの工夫もされています。

▲波を造る「ししおどし」装置

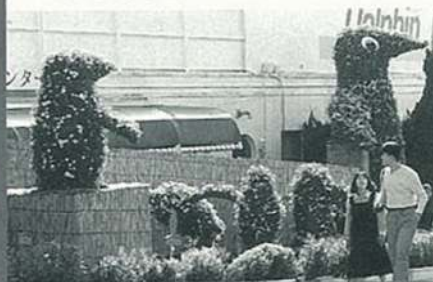
ウェーヴ・インプレッション・ゾーンの生きもの達の行動をじっと観察してみて下さい。彼らの海でのさまざまな生活のしかたを今まで以上に知ることができます。そしてこのいきいきとした南房総の海の再現は、きっとあなたをダイビング気分にしてくれるにちがいありません。（岡田）

▲波に漂うムギイワシの群

●人気急上昇笑うアシカ

最近、カメラのテレビＣＭに登場し大胆不敵な笑顔を披露する２頭のアシカに気が付かれた方々が多いことと思います。そして、そのアシカたちを人々は「笑うアシカ」と呼んでいます。彼らが当館のアシカショーのスター、ハック君とボン君です。

この笑顔は1992年よりアシカショーの中で演じられ、アシカが笑うという意外性と、見ていて思わず笑ってしまう独特の表情が人気を集めてきました。今回、コマーシャルへの登場でより多くの人の目にふれることとなり、ただいま人気急上昇中です。現在もこの笑顔は、アシカショーの中で演じられ、ショー終了後には、笑うアシカと一緒に記念写真を撮るコーナーもあります。みなさまもこの笑顔？をぜひまじかでご覧下さい。（関）

●海の動物菊花展－4.5ｍの巨大ペンギン－

７回目を迎えた「海の動物菊花展」が11月１日から23日まで行われました。今年の目玉作品は、「ペンギン村」と題しペンギンの色々なしぐさを模した作品計25体で、中でも特に人目をひいたのは高さ4.5ｍの巨大ペンギンでした。これにはびっくりして、おもわず見上げた人も多いようで、このペンギンをバックに記念撮影をされるお客様の姿が多く見うけられました。また機械を利用して前後に動いたり、回転をするペンギンも展示し、注目を浴びました。この他にも10ｍのマッコウクジラや、ペリカンの菊人形と本物のペリカンとの記念撮影のコーナーなどももうけられ、海の動物菊花展は、シーワールドの秋の風物詩としてすっかり定着したようです。（高梨）

●第７回研究集会開催

千葉県立長狭高等学校　文化ホールにおいて、平成７年１月28日と29日の２日間にわたり、第７回国際海洋生物研究所研究集会が開催されました。参加者は海外からの５名の招待者を含め、120名を超し、「求められる新たなるかかわり合い」をテーマに、最新の海獣類に関する研究成果の発表と熱心な討議が行われました。特に現在、絶滅の危機がさけばれているヨウスコウカワイルカの現状と今後の対応については、多くの意見交換がなされました。ひき続き行われた講演会は、オリンピックのシンクロナイズドスイミングで大活躍をした、小谷実可子さんをお招きして、選手時代の想い出や、最近夢中になっているというドルフィンスイミングについての講演が行われ、一般の方々も含めた多くの参加者を魅了しました。（荒井）

●保護されたネズミイルカ

１月８日早朝、千葉県富山町の定置網にイルカが迷い込んだとの連絡を受け、駆けつけたところ寒い海で生活する体長1.8ｍ程のネズミイルカでした。保護された個体は雌で、栄養状態は良くありませんでしたが外傷はなく、何らかの理由で東京湾に迷い込んだようでした。この個体は当館に運ばれた後、血液検査や寄生虫検査が行われ、マリンシアターのトレーニングプールに収容されて体調の回復に力が注がれました。搬入直後は、小さな物音にも驚き落ち着きなく泳ぎ回るなど、新しい環境に馴れなかったようですが、４日目にはエサを食べ始めました。その後係員が水中で給餌を行うなどした結果、現在では係員にも慣れて体重も少しずつ増え始め、体調も順調に回復しています。（法花）